

【特選】

自民にはおごぼれがない不支持率

藤井 蚩舟

政権交代後半年で「下がると言われて下がった民主党の支持率。だが、算すれば算すの警え。トドから手が出る自民党は、そのおぼれも来ない。支持率も八カしゃない。

【秀逸】

沖繩がまた無期限を強いられる

音藤ぶじお

五月十五日に「無期限延長論を出す」という鳩山首相の約束を無極めのない「本誌評発日」を迎え、いよいよ本編攻撃のめづるな任打ちに揮ふまた沖縄解放の日が来るか。

子は親を選べないむらさきの痣

鈴木 寿子

親による子への虐待がもとを断たないが、社会が病んでいるといふだけでは、子の体「絶えないむらさきの解法」はなかなない。句讀そのものに陰鬱が垂じりかかっている。

北教組後ろを向いたひな飾り

山口 早苗

首相のマイ・資金同様「知らなかった」では言い訳にならない。本誌「その程度の感算」選挙戦「勝ったことかそももものかしい。お雛さまも振り向いてはくれまい。

ご時世の波に吞まれる百貨店

塩見 佳代

「ご多舗がバタバタとつぶれ去りてしまつて、東京の顔も変わる。地鉄の勢も衰え、存続はならなくなる。」「ご多舗長くいらいで、ご時世にこそ本打打てきな。

時事吟だから辛辣で、切り口の鋭

い句が望まれることは言うまでもないが、かといつて、トゲトゲした用語や先鋭な言葉ばかりで構成すれば、

厳しい句ができるとは限らない。肩肘張らない用語で、なにげない言い方が、突き刺すようなイメージ効果を与えることは、

ランクの高い作品によく見かけることである。攻撃一概では、逆に諷刺は弱まる。相手の在り方にたいする忠実な模倣が、そのまま批判となる。これは

反対するより格段の効果がある。沢山の句をいただいても、一句も採れない場合は、

どれもが時事句と呼べないからで、当欄は何を措いても、最低時事句であることが条件になる。時事句は、対象となる事件

事象がはつきり見えていなければいけない。

閣僚の出席を取る自民党 鈴木寿子

こども手当でパチンコに行こう 同

恐いもの初めて知った愛子様 同

列車にも昭和が終わるラストラン 同

茨城空港視界は不良ナリ 同

一〇〇球で肩を壊した財務相 斉藤ふじお

密約の扉を開ける時の風 同

政治とカネ二度あることは三度ある 島崎穂花

歴代の首相緋く密約書 同

基地移転もぐら叩きがまだ続く 尾藤一泉

与野党を裏返しても金とカネ 同

沖縄が叱る 与党の皿回し 山口早苗

てなもんや笠を片手に黄泉の旅 同

銅メダルまでの段差に問いかける 松永昇児

日航は年金記録だけ残し 同

リヤカーで済ませる基地のお引越し 藤井瑠舟

反小沢夜は元気な七奉行 同

モンゴルと鎌倉で泣く大銀杏 島崎 肇

とき遅してんでこ舞いになったトキ 同

民主党ひとりの陰に蝕まれ 吉川一男

いつ贈ったもアリガトもない親子 同

ハイチから他山の石が降ってくる 佐々木福太郎

長崎の鐘鳴り止まぬ返り討ち 同

不起訴では記事にならない週刊誌 久保昭一

五輪熱不況も憂さも焼き尽くす 同

まな板の上でエンストするトヨタ 一宮茂男

五輪終わりと目と耳を取り戻す 普川素床

ゼロ戦のようにプリウス叩かれる 三十尾維大

母離れ小沢はなれが出来ぬ鳩 小林寿寿夢

クロネコに頼むつもりか基地移転 足立俊夫

支持率の拳固に口を抓られる 小泉寛明

カジュアルな品格が行く引退後 川村雄一

「潔い」「正義」は辞書に載ってない 小田由美

英語なら臆せず披露する本音 石井光夫

民主党まずは仕分けのマニフェスト 白川楽人

勝つことに勝って品格取りこぼし 三浦哲夫

最後までストレンジャーな元力士 川那部つぼみ

断崖を覗き込めないお坊ちやま 青山 南